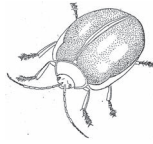


たんぽう



ミツコブエンマコガネの採集例

久保弘幸

加古郡播磨町大中でミツコブエンマコガネ (*Onthophagus trituber*) を採集したので、報告しておく。

採集場所：兵庫県加古郡播磨町大中 (図1)

採集日：2018年11月6日

採集個体：1♀ (図2)

状況：同地の大中遺跡公園内の、遊歩道沿いで犬糞下に潜んでいた個体を採集。同じ糞に他の糞虫は見られなかった。同地にはコブマルエンマコガネ (*Onthophagus atripennis*) をはじめ、数種の糞虫が生息している。

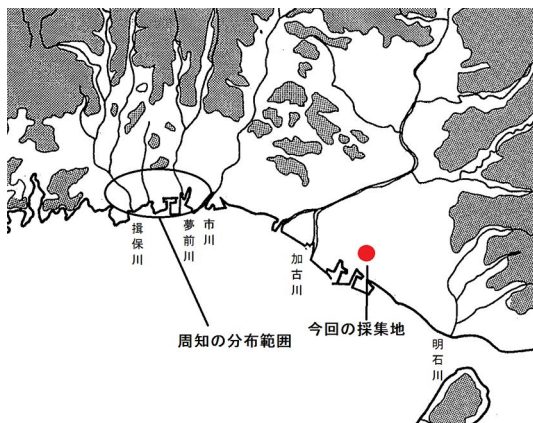


図1 既知の分布域と今回の採集地。



図2 今回採集したミツコブエンマコガネ (♀)。

ミツコブエンマコガネは、兵庫県西部～岡山県の瀬戸内沿岸地域に分布するエンマコガネ類の1種で、都市公園や河川敷等を生息場所とし、主に犬糞に依存しているとされる (田中稔 1993)。その特異な分布状況から、外来種と考えられている。兵庫県下における本種の分布は、揖保川・夢前川流域を中心とする中播磨地方にあり、管見の限り、東播磨地方での採集例は知られていないようである。

今回の採集例によって、ミツコブエンマコガネが中播磨地域から東播磨地域へと分布を拡大したことが明らかとなった。この間には、市川、加古川等の広い河川があることから、本種の移動性はかなり高いことが想起される。神戸市・明石市など、より東の地域および内陸部への分布拡大も予測されることから、今後の調査に注目したい。

○参考文献

田中稔, 1993. ミツコブエンマコガネ綱干に産す. きべりはむし, 21 (1): 26.

(Hiroyuki KUBO 兵庫県明石市
兵庫ウスイロヒョウモンモドキを守る会)

兵庫県尼崎市でヤシオオオサゾウムシを発見

西川和行

2018年12月5日のお昼頃、当直仕事を終えた筆者は、業務の一環で、兵庫県尼崎市立花町4丁目の、とある医院へ向かった。医院に着き、間口2mほどの自動スライドドアを開けて受付玄関に入り、目の前の受付員に対して処方薬の受領に来たと申し伝えて待機中、ドアから10cmほど内側の足元に、何やら見たことのない真っ赤な甲虫がモゾモゾと動いていることに気づいた。大きさは3~4cmくらいある。口吻が伸びていたのでゾウムシであることはわかったが、奇妙なのが色と季節。暖冬とはいえ12月という冬期に、元気に動く足元の虫が非常に気になったが、この後、職場に戻ることから持って帰るわけにはいかず、写真を撮影した (図1)。虫は、スライドドアが開いた拍子に歩いて院外へ出ていき、著者も受付から処方薬を受け取り、その場を離れた。



図1 尼崎市立花町で発見されたヤシオオオサゾウムシ 著者撮影.



図1 たつの市で見つかったフェモラータオオモプトハムシ 著者撮影.

後日、この奇妙なゾウムシについて調べてみると、ヤシオオオサゾウムシであることがわかった。その後本件を、兵庫県立人と自然の博物館に連絡したところ、2017年11月に本種は西宮市で発見されていたことがわかった(川崎ら, 2017)。また、同博物館を経由して、尼崎市役所に問い合わせたところ、尼崎市での記録はとくに知られていないようであった。

ヤシオオオサゾウムシのいた医院は市街地にあり、周辺には草木もなく、どこかから飛来して偶然医院内に迷い込んだものと思う。本種の食樹はフェニックスとされているが、発見場所付近にフェニックスの植栽は見当たらず、発生源は特定できなかった。なお川崎らの西宮市での発見地点から今回の発見地点までは、武庫川を挟んで、直線距離で3km足らずである。

記録の公表を勧めてくださった兵庫県立人と自然の博物館、八木剛氏にお礼申し上げる

○参考文献

川崎菜穂子・川崎安寿, 2017. 兵庫県西宮市でヤシオオオサゾウムシが発見される. きべりはむし, 40(1): 38.

(Kazuyuki NISHIKAWA 兵庫県西宮市)

兵庫県たつの市でフェモラータオオモプトハムシを発見

刈田悟史

フェモラータオオモプトハムシ (*Sagra femorata*) は主に三重県周辺で確認されている大型の帰化種である。筆者は兵庫県下で2例目となる個体を確認しているので、少し古い記録となるが報告する。

2017年7月27日正午過ぎ、兵庫県たつの市新宮町にて、建物の自動ドア前に落ちてもがいている本種1♀

を確認、撮影した(図1)。確認した個体は中脚が左右とも欠損していたが非常に活発に活動しており、撮影後に誤って逃げられてしまったため、標本は残っていない。

なお、発見箇所は栗栖川沿いであり、川沿いのクズ群落での発生を疑ったが、それ以降追加個体は確認できておらず、冬期に周辺を探索した際にも虫こぶ・ゴール等は確認できなかった。おそらくは資材等にまぎれて持ち込まれたものではないかと思われる。

なお、本種の本来の産地はインドから東南アジア、中国南部であり、2009年に三重県松阪市で確認された後、三重県内での分布域を拡大し続け、2017年以降は愛知県名古屋市にも定着している。兵庫県内では2016年7月に宍粟市にて1例の記録が確認されているものの、それ以降の今回記録以外の報告はなく、現状では定着していないものと推定されるが、一度定着すると根絶は困難であることから、今後も十分な注意が必要である。

○参考文献

三木 進, 2017. 兵庫県宍粟市でフェモラータオオモプトハムシ. きべりはむし, 39 (2): 72-73.
 戎谷秀雄・宮武頼夫, 2011. 三重県におけるフェモラータオオモプトハムシの2006年の記録. 月刊むし, 488: 41.
 秋田勝己・乙部宏・高桑正敏, 2010. 三重県に定着した外来種フェモラータオオモプトハムシの駆除を試みて. 月刊むし, 473: 43-44.
 平成29年度愛知県外来種調査結果の概要 (https://www.pref.aichi.jp/uploaded/life/195505_473673_misc.pdf)

(Satoshi KARITA 兵庫県たつの市)